



編集企画・発行
 沖縄防衛局
 総務部報道室

〒904-0295
 嘉手納町字嘉手納290番地9
 TEL (098) 921-8131
<http://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>



「2009新なる旅立ち」前川 京美 (総務課)

新年のご挨拶



真部 朗

あけましておめでとう
 ございます。昨年は、沖
 縄防衛局に多大なご支援
 を賜り、誠にありがとうございました。

当局としては、本年も、沖縄において、我が国の平和と安全のため、我が国独自の防衛力である自衛隊と日米安全保障体制の中核を成す日米軍の活動拠点としての防衛施設を安定的に確保しつつ、防衛施設に起因する地元のご負担を除去し、また、それが叶わない場合であっても少しでもこれを軽減することを基本として、各種業務に邁進する所存です。

米軍再編の実施は、本年も最重要課題の一つです。普天間飛行場の移設を例に取れば、環境影響評価については、準備書等の作成が課題となりま
 すし、キャンプ・シュワブにおける関連施設の建設等も着実に進めていく必要があります。当局としては、これ以外にも海兵隊のグアム移転、嘉手納以南の土地の返還等を含む米軍再編が、全体として、我が国の防衛とともに県民のご負担軽減のために必要不可欠であるとの信念の下、県民のご理解を得ながら一刻も早く目に見える成果を積み上げていきたいと考えております。

なお、防衛施設に係る業務に加え、「防衛セミナー」の開催等、我が国の防衛について県民に理解を深めていただくための努力も続けてまいります。

本年も何とぞ沖縄防衛局をよろしくお願い申し上げます。
 (沖縄防衛局長)

陸自 不発弾処理 3万件

沖縄県は、先の大戦において地上戦が行われたところです。大量の砲弾、爆弾が雨あられと投下され、県民はこの戦を「鉄の暴風」と言い表しました。沖縄不発弾等対策協議会などによると、この時の爆弾、砲撃弾等は20万トンにもおよび、そのうちの1万トンが不発弾であったと推察されています。



復帰前は米軍が、昭和47年の復帰以降は、陸上自衛隊が不発弾の処理にあたっており、昨年12月10日、陸自第1混成団の第101不発弾処理隊による処理件数が3万件を超えました。

同部隊は、この日、朝から浦添市などの工事予定地や農地などを回って現場保存されていた不発弾の回収作業を行い、与那原町の現場で3万件目となりました。

陸自が処理をはじめてから36年経ちますが、その間137万発、約1500トンの処理を無事故で行っています。



二瓶 博人1尉

県内には未だ2500トンの不発弾が残存していると推定され、その処理が全て終わるには80年かかるといわれています。

3万件目の不発弾処理を行った第101不発弾処理隊 隊本部班長 二瓶博人 一尉のコメント

「3万件は確かに一つの節目ですが、沖縄には今でも多くの不発弾が埋っています。気持ち新たに、安全・確実に処理を行っていききたいと思います。」

防衛セミナーin嘉手納

平成20年12月5日(金)、嘉手納町中央公民館で第3回防衛セミナーを開催しました。当日は、天候不良にもかかわらず150名の皆様にご参加いただきました。

テーマは前回に引続き「国際テロを根絶するために～インド洋での補給支援活動」として、外務省、海上自衛隊及び沖縄防衛局の講師が説明及び講話を行いました。

セミナー終了後回収したアンケートには「補給支援活動の必要性和重要性が具体的によく理解できた」、「報道等では知ることのできないことを知ることができてよかった」という感想や、「もっとわかりやすくするためにもうひと工夫を」というご要望もいただきました。

沖縄防衛局は、いただいたご要望等を踏まえながら、引き続きセミナーの開催を予定しておりますので、一人でも多くのご参加をお待ち申し上げます。



「摩擦」&「バランス」

労務管理官 多良間 吉高



寒い日の朝
出勤前の湯船
の中のこと、
ふと、「この
地球上で目ま
ぐるしく起っ
ている様々な現象の源は何だろう、
何か共通なものが働いているので
は。」との疑問が湧き、瞬時に頭を
よぎった言葉は「摩擦」でした。

「摩擦」という言葉にあまりよい印象をもたれていない人が多いと思いますが、この摩訶不思議なもの、良きにつけ悪しきにつけ、地球上のあらゆる現象を引き起こしているのではないだろうかという考えが直感的に思い浮かんだのです。

地球誕生以来、いん石の衝突、地殻変動、雨、風、雷等々いわゆる無機質なるものが気の遠くなるような長い年月をかけて「摩擦」を繰り返して、その結果、生命体が出現、その後も自然界における様々な「摩擦」が絶妙な「バランス」のもとにその進化を促し、最高傑作である人類を出現させたのだと思われまます。また、人類が発明した航空機などの様々な文明の利器も、「摩擦」をうまくコントロールするということの研究の成果であると思

われます。

一方、人類の出現は、人類自身にとつて真に厄介な「第二の摩擦」を包含してしまいました。これまでの「物理的な摩擦」とはまったく異なる「精神的な摩擦」です。この「第二の摩擦」は、人の心の中、人と人、地域間、或いは国家間において大なり小なり存在し、これが大きくバランスを崩すと不幸な結果を招くこととなります。我が国では、連日報道されているように、凶悪犯罪やいじめなどが増え、実に憂慮すべき事態となっていますが、これもバランスを欠いた「摩擦」が原因ではないかと考えます。

日本人は古来から、すばらしい社会の実現を目指し、避けては通れないこの「摩擦」を「バランスのとれたものにするため、「道徳心」の大切さを時代を超えて伝えてきたと思います。その努力がいつのまにか薄れてしまっているのではないかと考える今日この頃です。

年頭に当たり、皆さんもこれまでの自分を振り返って、かつての貧しいながらも古き良き時代と言われていた頃を思い起こしながら、改めて「道徳」について考えてみてはいかがでしょうか。